

「人が授かった力」

お叱りの言葉を覚悟で…。

材料組成で言えば、人間の体は脂肪・炭素・リン・鉄・石灰・硫黄・マグネシウム、そして水。これらをお店から購入しても、ざっと1万円ぐらいでしょうか。(神仏を冒とくする分析で返すがえす恐縮です)。

テレビには、身に付けている装飾品の合計額が数十億と言う方も登場します。でも、その金額がその人の価値だなんて、誰も思いません。裸になれば、みんな材料費は1万円。

じゃあ、何が違うの？と問われれば、やっぱり生き方です。自身に対し、周囲に対し、どれだけ“生きる力”をプレゼントしているか。

先日、日本美術院の重鎮、伊藤髟耳さん(6月6日まで平福記念美術館で展示会)とお話をする機会に恵まれました。「絵なんて、生活に必ず必要なものじゃないから。でも絵を見て、ほんの少し元気が出たり、やる気になったりしてくれたらね」と穏やかな言葉。

生まれてくるとき、誰もが「互いを活かす」力の素を授かってくるのだと思います。自分では思い当たらないかも知れませんが、皆さんも、きっと周囲を元気づけています。



平福記念美術館で伊藤髟耳さんと

がんばる！女性消防団

今回は、火災の話をしたと思います。少し前の話ですが、1月の出初め式の時に、来賓の方のあいさつの中に、防災についてのお話があったので紹介します。

「皆様、ご近所さんとあいさつしていますか」。あいさつと防災？と思いますよね。あいさつをすることで、新しい会話が生まれ、家族のことなど色々知る機会になります。仙北市は人とのつながりが温かい街です。「おはよう」というあいさつだけでなく、「なんとしてら?」「まめでらが?」「あっちぐなったな」など、ステキな言葉がたくさんあります。

普段からあいさつをしていることで、若者が一人暮らしの年配の方を気遣う心を持ちます。近くの子が火遊びをしようとしているのを注意してくれる人がいるかもしれません。この小さな積み重ねが防災につながるなんて素晴らしいですね。しかも、消防団だけでなく、市民全員が今すぐ取り組むことができます。実際に私も、朝夕、子どもたちと歩いて保育園への送迎をしています。ご近所さんとのあいさつをとおして、子どもたちの顔や名前を覚えてもらったり、私も良いことばかりだと実感しています。

残念ながら仙北市では今年発生した建物火災は5件です。(5月10日現在)火災の原因は様々ですが、私たちにできる小さな積み重ねで、一つの火災を防ぎ、一つの命を守ることができるかもしれません。

少し前のニュースで、ライターをいたずらした幼い子が火災で亡くなってしまいました。全国の女性消防団の中には、こういう悲しい事が起きないように、幼児を対象とした防災教育に熱心に取り組んでいる町があります。私もその方々にお会いして、実際に学んできました。いつか仙北市の子どもたちを対象に、私たちもそんな取り組みができるように、今、一生懸命勉強しています。

暖かくなり、外にいること多くなります。笑顔であいさつしている方が増えることを願っています。

西宮三春

